

日本のイノベーション戦略委員会（小島順彦委員長）は2月2日、提言「日本のイノベーション戦略—トップがコミットし、自ら実行すべし—」を発表した。

世界は現在、大きな変化の潮流の中にあり、日本社会も少子高齢化などの環境の変化も合わさって、多くの課題に直面している。しかし、景気の回復もあり、日本の中の危機意識が足りないため、課題をそのまま放置した場合、日本は少しずつだが確実に衰退してしまうという強い危機感がある。

本委員会は日本の持続的成長に必要な不可欠なイノベーションを検証してきた。1年目は日本社会のイノベーションを促進させる「戦略」を提言し、2年目となる今年は、その戦略を実現させる「アクション」について検討し、提言に取りまとめた。

日本のイノベーション戦略委員会
（小島順彦委員長）提言

「日本のイノベーション戦略」

—トップがコミットし、自ら実行すべし—

提言の概略

“イノベーションを促進させる3つの戦略”

1. イノベーションはなぜ必要か

1) 果たす役割

イノベーションとは社会の持続的成長を牽引するエンジンである（日本の労働力と資本は既に減少。よってイノベーション力に期待）

2) イノベーションの原理

- a. イノベーションの要件
- b. イノベーションのプロセス
- c. イノベーションに必要な資質

2. 日本とイノベーション

1) 日本にはイノベーションの歴史、実績、そして資質がある

2) 日本のイノベーション力は社会構造や風土が阻害している

- ①戦後の成功がもたらした慢心が、変化や挑戦を拒む硬直化した社会構造を構築
- ②均質的な社会が、社会を内向きにし、閉鎖的で嫉妬深い社会風土を醸成

3. イノベーションを促進させる「3つの戦略」

- ① “開かれた社会”
- ② “多様性のある社会”
- ③ “夢のある社会”

“イノベーションに必要な2つのアクション”

【前提条件】 トップがコミットし、自ら実行する

イノベーションの促進には、組織の風土や文化を変える必要があり、これはトップの仕事である。ただし、トップが新しい方針を打ち出す時は、現場はトップの言動が一致しているかを注視しており、トップの指示や評価が、掲げている方針と合致していないと、組織は動かない。

【アクション①】 “進むべき方向性を示す”

1) 危機感を醸成

- 中長期的な環境の変化のリスクをトップが直接、繰り返し伝えて、危機感を醸成
- しがらみのある内部の人材ではなく、変革者として外部の人材や若い世代の登用も有効

2) 進むべき方向を示し、選択と集中を行う

- 内部コミュニケーションを高めて、組織の軸となる価値観（Value）を改めて考え直す
- 組織の強み、コア・コンピタンスを改めて考え直し、差別化できるコンセプトを示す
- 組織の中長期的な成長戦略を明確にし、それに合わせて選択と集中を行う

3) 抵抗勢力を除去・遮断する

- 情報開示を進めて透明性を高め、「粘土層」（透明性を阻害する抵抗勢力）も除去し、別の場所で活用する
- 新しい取り組みは、干渉されないよう既存の組織と距離を置く

【アクション②】 “行動を変える仕組みをつくる”

1) 徹底したニーズ志向

- 世の中のニーズに対して新たな価値を創造することがイノベーションの原点である
- 現場との接点を通じて環境の変化に伴う新たなニーズを掴む

2) 多様でオープンな組織にする

- 重要な組織戦略の一環としてダイバーシティー・マネジメントを推進し、日本社会の均質性を変える
- 内部での情報の共有や見える化を進めて、組織間の内なる壁を取り崩す
- 連携や協業を通じて内外の知識や人材の流動性を高める（自前主義から脱却）

3) 挑戦を奨励し、常にフォローアップする

- 自分で考えて行動することのできる、イノベーションを担う自立した人材を育成する
- 機会を与えて、現場に権限を委譲することで、挑戦を奨励する環境・風土をつくる
- 進捗状況をきちんとフォローし、挑戦した姿勢も含めて評価は公正に行う

“安倍政権への期待と要望”

- 安倍首相が所信表明演説で掲げている“美しい国、日本”というビジョンが、国家、企業、個人のイノベーションがベースであると信じ、その実現への**首相の強いリーダーシップに期待**。
- 首相就任以来の意見表明や施策の中には、本委員会の提言と方向性が同じものもあることから、本委員会が提言する“3つの戦略”と“2つのアクション”という視点で、**日本社会のイノベーションに向けて安倍首相に特に期待し、また望むことをまとめた**。

1. “3つの戦略”という切り口から

【戦略①】 “社会を開く”

- 規制改革や構造改革など、**改革の一層の推進**
- 自立した日本の**外交戦略の確立**（特にアジア外交の更なる推進／安全保障）

【戦略②】 “多様な社会”

- イノベーションを担う人材を育成すべく、**日本の教育制度を徹底的に見直し強化**
- 多様な人材**（女性、高齢者、外国人など）の活躍できる環境の整備
- 国民の意識のより一層の**国際化**

【戦略③】 “夢のある社会”（美しい国）

- 日本の**強み**（ものづくり、ソフトパワーなど）の強化
- どのような日本にしたいのか、日本が世界の中で**目指すべき中長期的な将来像をより具体的に示す**

2. “2つのアクション”という切り口から

【アクション①】 “進むべき方向性を示す”

首相が議長の「経済財政諮問会議」とともに、「規制改革・民間開放推進会議」などでも、自らが先頭に立って改革路線を明確に示し、抵抗勢力を遮断しながら、日本社会のイノベーションに向けた改革を期待したい。同様に、イノベーションを担う次世代を育成できる教育制度の確立に向けた**教育再生会議でのリーダーシップ**も期待している。

【アクション②】 “行動を変える仕組みづくり”

現状のニーズに対応していない硬直化した戦後の社会システムを見直し、公務員制度、教育制度、医療制度、そして税制財政など、幅広い分野において、**新しい時代のニーズに合った透明性の高い社会システムや制度の創設、そしてより一層の国際化の推進を期待したい**。
更に、うまく機能しているか、進捗状況を常にフォローアップ願いたい。

首相の強いリーダーシップと実行力に大いに期待したい